

医薬情報提供者



あるあるネタ

- 医師に会えるのは「ほんの1分」、でもその1分のために“1日分の準備”をしている。
- 「情報提供です」と言いながら、実はその場の空気読みが9割の勝負。
- 薬剤名はスラスラ言えるのに、一般名で呼ばれると一瞬フリーズする。

初期の失敗

最初の面談でパンフレットを読み上げてしまい、「それなら自分で読むよ」と言われ撃沈。医師に“伝える”と“届ける”は違うんだと実感しました。

職業病

知人に薬の話が出ると「その成分ならA社とB社と…」と製品名と適応症が自然に頭に浮かんでしまう。あと、病院の掲示板や薬局の棚を見て“シェア”を予測してしまう。

健康問題

外回り・訪問・長距離移動による疲労、パソコンやプレゼン資料作成による眼精疲労、また業績プレッシャーによる胃痛・ストレス障害も起こりやすい傾向にあります。

その職業に就いている人を讃える

あなたはまさに“薬の橋渡しをするプロフェッショナル外交官”ですね。新薬の希望も、副作用の懸念も、すべて“情報”という形で医師に届け、患者に安全と安心をつないでいる。その手に持つパンフレットの中身よりも、あなた自身の信頼こそが、処方未来を変えていく。誰よりも製品を知り、誰よりも空気を読むあなたに、敬意と感謝を。どうか、心と体に“副作用”が出ないように、今日もあなたらしく“適正使用”で走り続けてください！